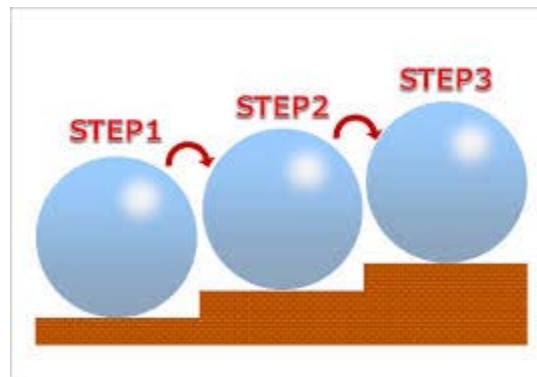


# 4. ユニバーサルデザインから 個別化へ

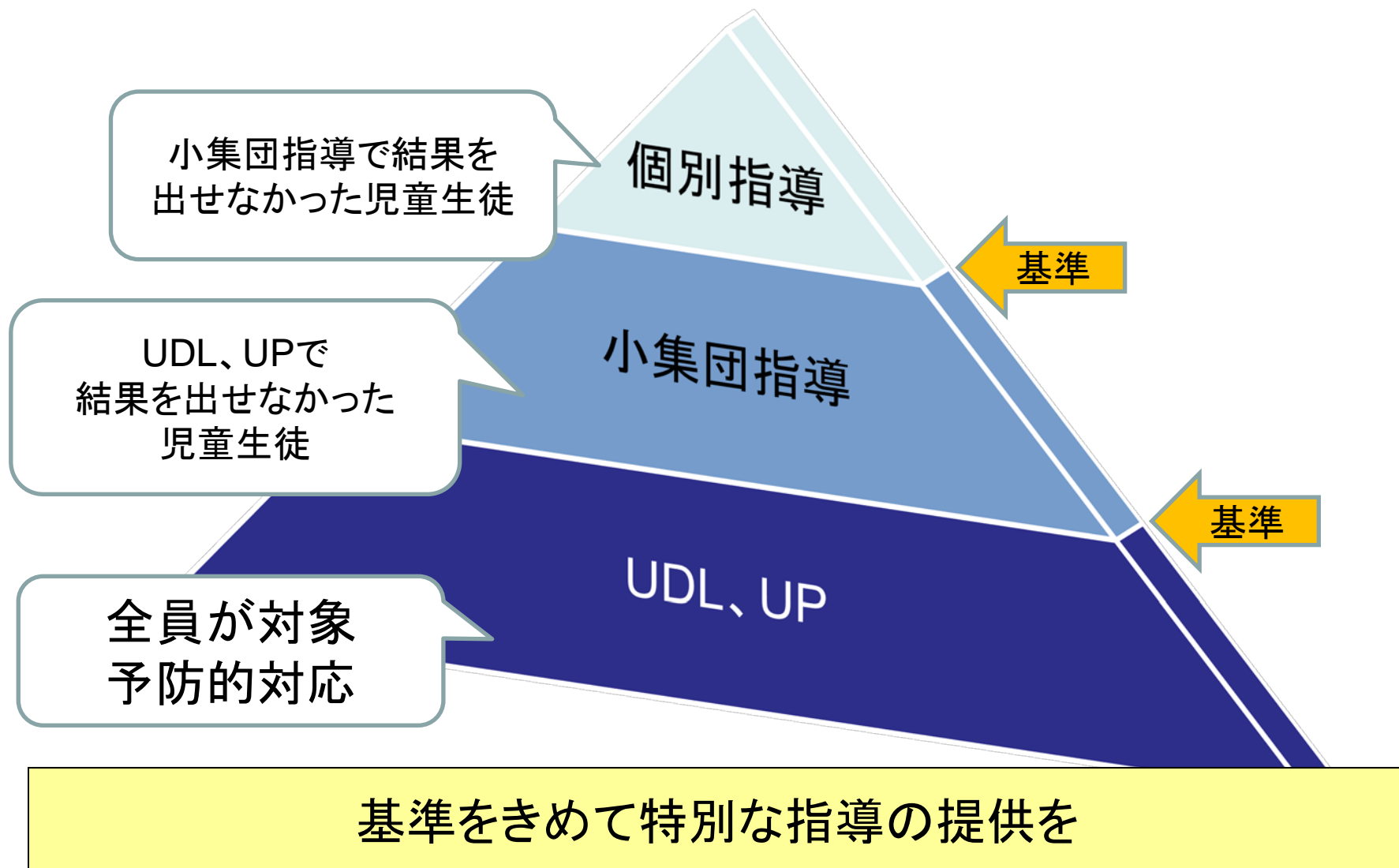
三層モデルによる段階的な対応



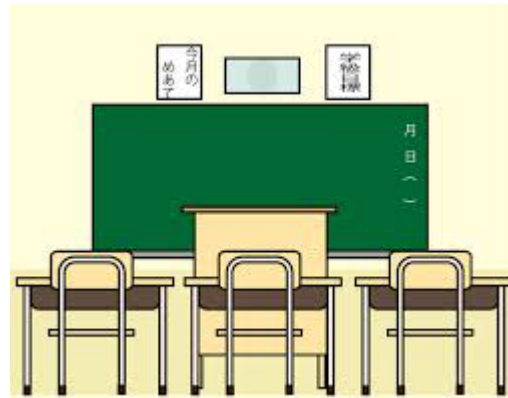
# 共通→特別な指導(一覧)

	全員対象	基準 	段階的な対応
学習	UDL		小集団による補習、個別学習指導 実態把握→特性にあった支援
対人関係  <small>いじめへの学級指導 学級でのSM</small>	<u>いじめ指導</u> CWSST <u>ストレスマネジメント</u>		SST、カウンセリング 協同学習 通級指導教室
生徒指導	ユニバーサル プログラム		個別指導(自己解決法) 機能的アセスメントと行動支援(個別 指導)

# 共通する対応→個別化へ

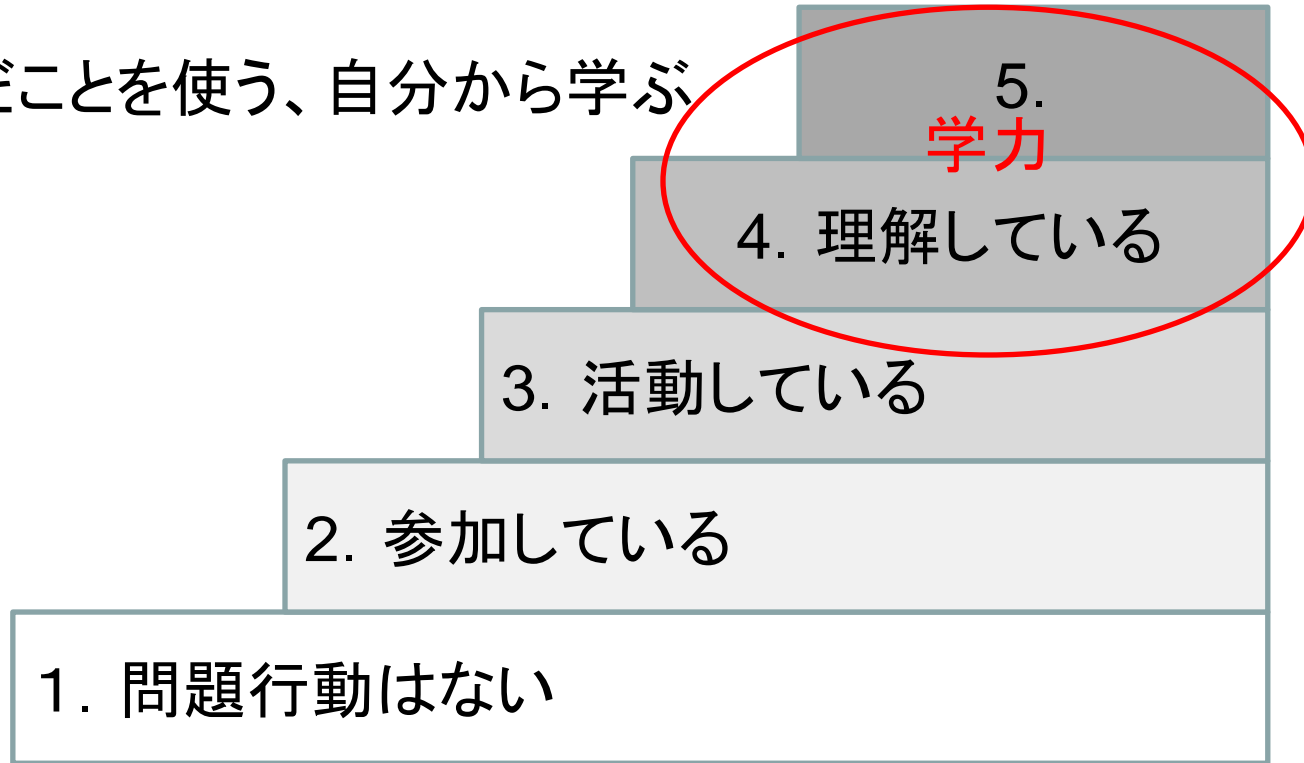


# (1) 学習の場合



# 学びの段階

学んだことを使う、自分から学ぶ



UDLで「4」に到達できない子のために特別な指導を！

# 段階的な介入(例)

検査の実施

専門機関との連携(保護者への説明)

合理的配慮

特別編成支援学級

放課後通級

学級

3: 個別指導

繰り返し学習、継続的な評価

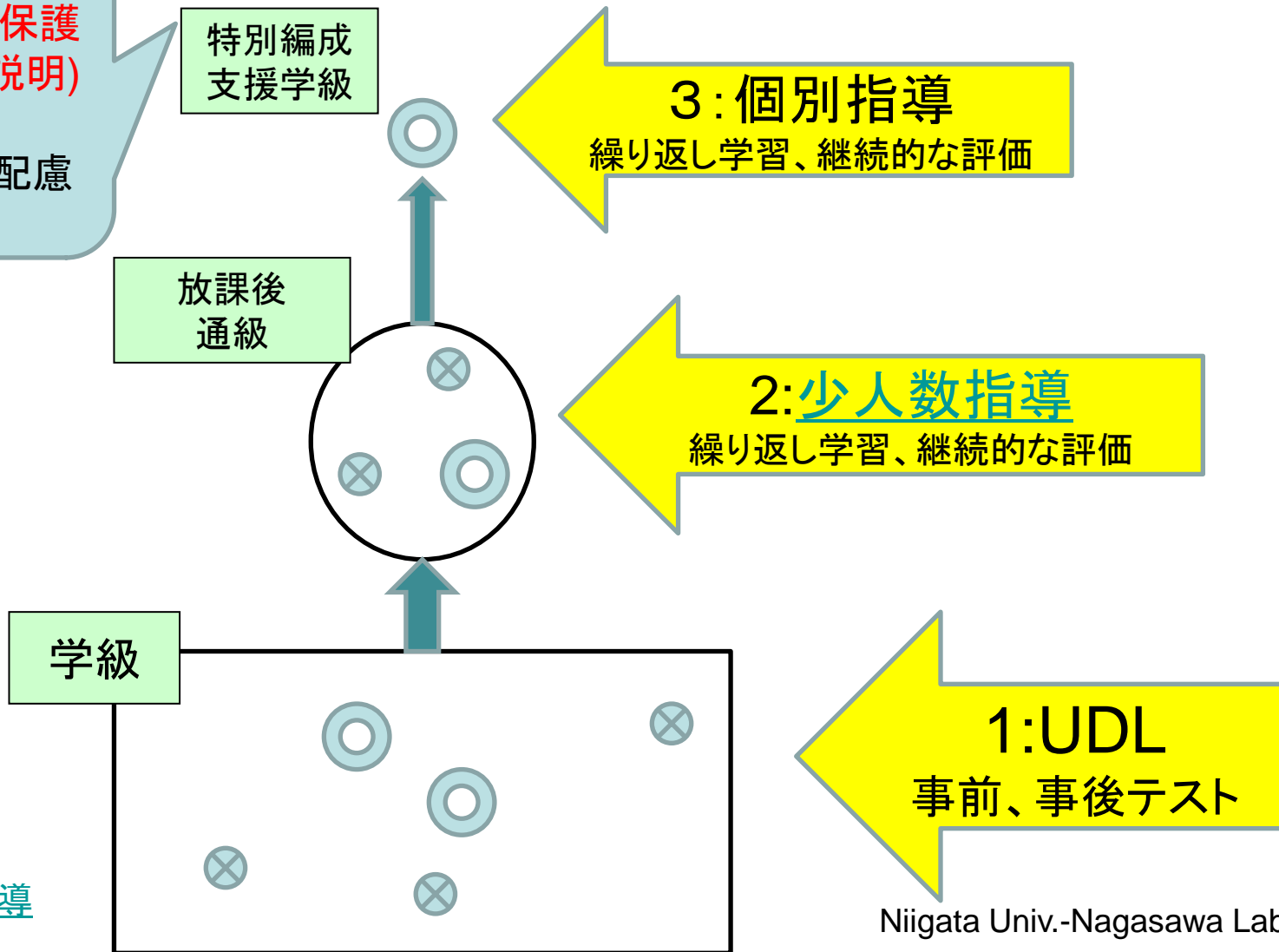
2: 少人数指導

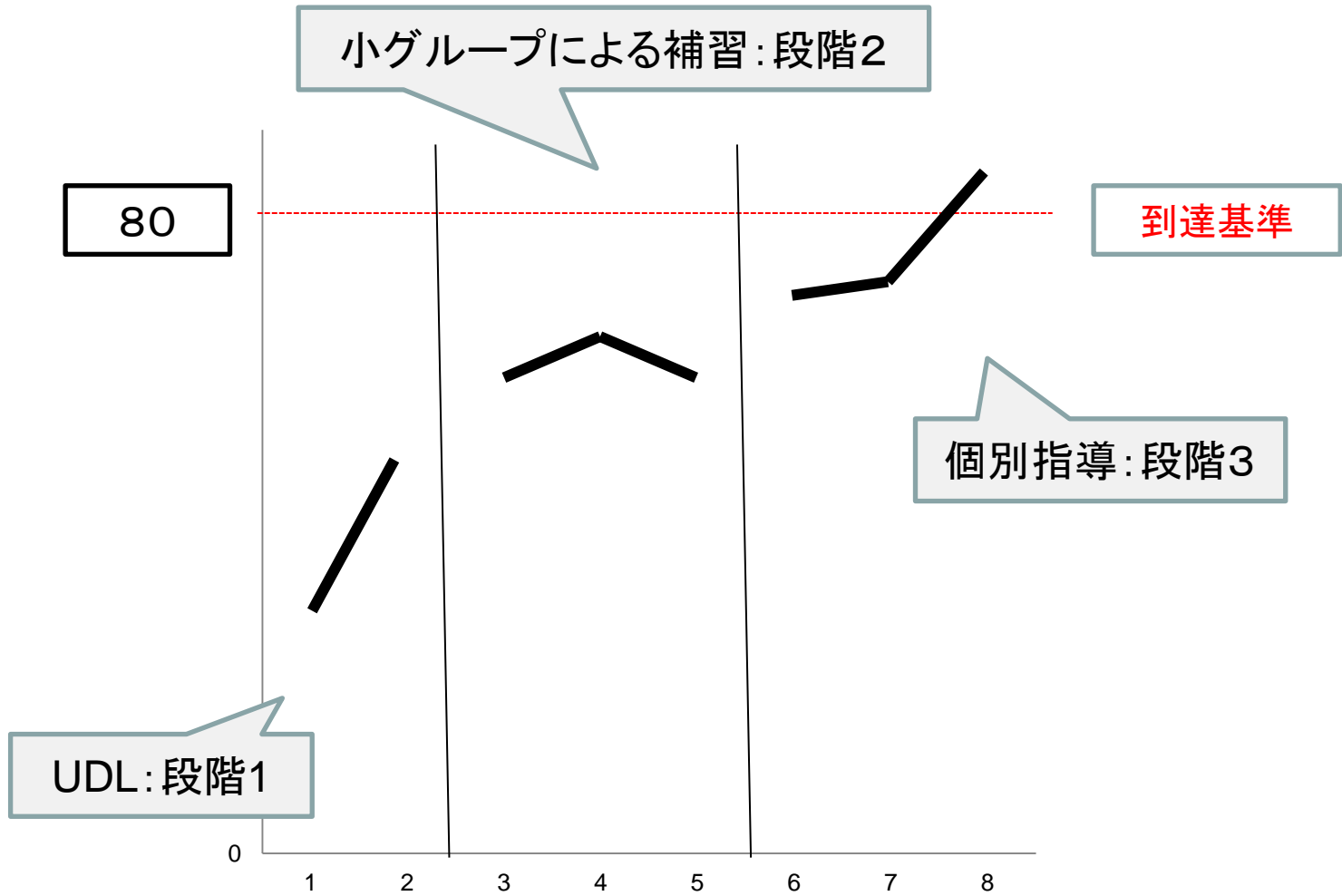
繰り返し学習、継続的な評価

1: UDL

事前、事後テスト

読み書き指導



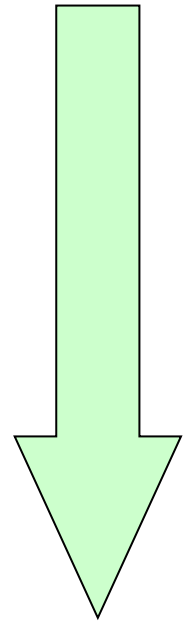


到達基準をきめる  
常に介入とアセスメントを同時進行

# (高校)UDLと段階的な対応

- 通常の授業
  - 学習のユニバーサルデザイン(UDL)
- 補習授業
  - 選択科目で教科の補習、放課後の補習
- 少人数授業、習熟度別授業
- 単位認定の二重基準
- 障害特性にあった対応
  - 合理的配慮、基準の変更(後述)

介入(小)



介入(大)

生徒の実態や校内のリソースにあわせた学習支援



## (2)生徒指導の場合



段階3: 個別対応  
基準に達しない生徒・一対一対応

保護者連携  
校内委員会

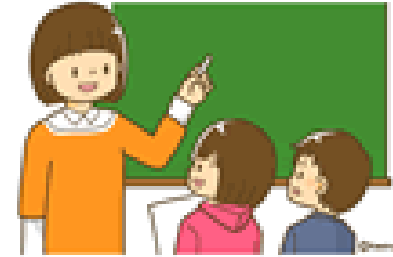
「なにがむずかしかった？」  
「どんなことが困っているの？」

段階2: 特別な指導  
基準に達しない生徒

「みんなでルールを守ろう」  
「守っている人はえらい」

段階1: ユニバーサルプログラム  
通常学級で全員を対象  
スクールスタンダードの適用

罰を与える < 特別な指導をする



# UDLに基づく授業モデルの提案

学習活動と学習内容の  
自己評価を取り入れた授業モデル

学習理解を保障する → 問題行動の予防

# UPを成功させるための学校作り

Andreou(2015)

- 様々な方法による継続的な学級指導、望ましい行動を褒める、対応のための組織づくり、課題を教師一人ひとりが主体的に捉える、実態に合わせた適切な指導法、チームアプローチ(協働作業)、新たな取り組み・人材、データの活用、外部機関へのアクセス、優先順位をつけて取り組む、校長の関与、職員の配置転換、様々な意見や信念の調整

# 自己評価を取り入れた授業モデル+ タイムアウト

導入

- 学習活動の明確化
- 学習内容の明確化

チェックリスト

ルールに従っていることを評価  
逸脱行動に警告  
警告3回でタイムアウト

展開

- 学習活動の自己評価
- 学習内容の自己評価

チェックリスト

机間巡視  
ノート点検  
小テスト

終結

# タイムアウトとは

## 小学校の事例

UP+タイムアウト

- 別室に移動させる(活動から離す)
- 一時的に権利を制限する教育的な罰
- クールダウン、約束確認後すみやかに復帰
- 手続き
  - － 警告→別室移動
  - － 話を聞き、クールダウンをはかる
  - － 戻るかどうかを本人にきめさせる
  - － 教室では自然に受け入れる

「何かいやなことがあった？」  
「授業が難しかったかな？」  
「困っていることがあるんじゃない？」

安全な部屋に移動させ、職員が必ずつくこと



## 段階2：小グループ指導

自己解決  
セルフモニタリング

# 段階2: 約束遵守の集中指導

- 教師評価で目標達成が困難な子どもを特定
- 時間を特設し、小集団指導
  - 收拾がつかない場合は個々に対応
- 話し合いで、確実に守れる目標を自己決定
- 実行し記録：セルフモニタリング
  - できていることをこまめに評価。拒否発言に惑わされない
- 実施期間は1から2週間

守れる約束をこまめに自己監視 → 「守る」意識の強化



# セルフモニタリング

- 話し合って約束をきめる

約束「手をあげてから発言する」にします！

- 実行したかどうか、記録する

チェックリストを用い、記録することを教える  
記録することが行動抑制になります

- できたことを評価する

「手をあげながら言えたね！」

自分で行動を監視(モニタリング)→行動抑制  
約束を守る → ほめてもらえる → 自己肯定感

# 自己監視のチェックリスト

\_\_\_月\_\_\_日

目標：先生の話聞く

時間帯 教科	10分	20分	30分	45分
国語				
算数				
社会				

約束通りできたかどうか、自分自身でふり返る  
自分で監視することで、行動抑制(自己コントロール)できるようになる

# 問題行動の自己解決(基本)

- 感情的にならず冷静に

「何があったか、ゆっくり話してごらん」(じっくり聴く)

- 何が悪いのかを本人に気づかせる

「それはあなたにとっていいことかな」「どんな約束だったの？」

- どうすればよかったのか(次どうするか)本人と考える

対応の仕方をいくつか提案して選択させる(できること)

- 少しでもできたことを誉めてのばす

「よく我慢できたね」「今度ははっきり言おうね」

なぜやった「Why?」ではなく、今後どうする「How?」

ちよつとくわしく・・・

# 出来事をふり返る

Aが自分をにらみつけた  
自分は悪くない

あなたはAくんが「にらみつけた」と思ったんだよね。  
殴ったことは、あなたにとって良かったと思うの？

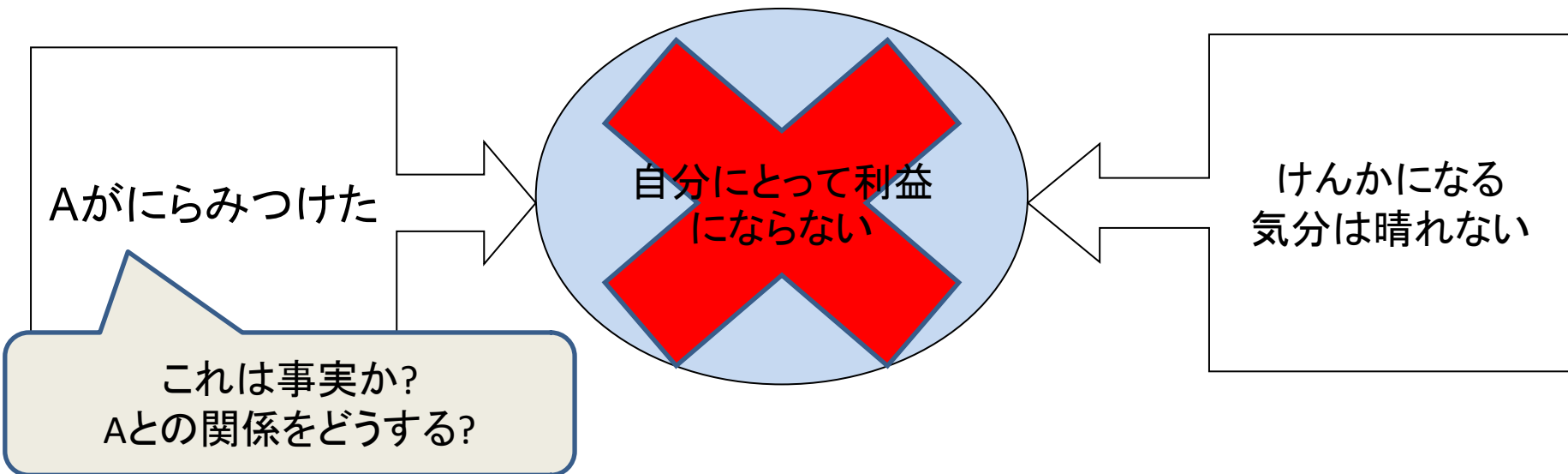
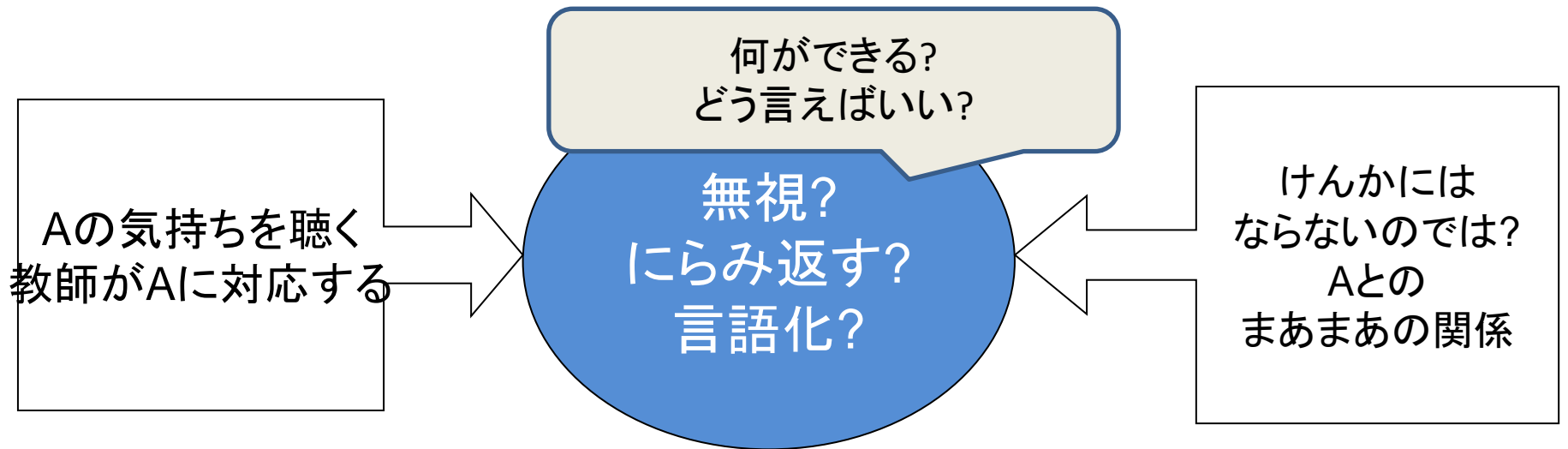


Aがにらみつけた

Aを殴る

けんかになる  
気分は晴れない

# 対応を考える



# 成功するために

- 教師(もしくは補助教員)が、問題行動の記録をとる
- 現状を認識させ、現実的な目標をきめる
- 仮実行し、うまくいかなかったときに話し合っ  
て、うまくいくための方法や支援をきめる
- 教師→本人と、自己評価(監視)に移行
- トークンシステムと組み合わせる

(あとで説明)

Hunter(2014)

# Tier2:基本的な対応

- 消去法、ノンバーバルサインによる警告、近くによって注意喚起・制止、別のものに興味や注意を移す、優しいことばかけ、ユーモア、個別学習支援、子どものことばや行動を解釈、建設的な目的を示してパートナーを変える、活動を再構築する、ルールを全員で確認する、タイムアウト、いけないことははっきり“No”、良い行動は必ず強化
  - Sayeski(2011)TEACHING,44(1)



# RTI: Tier2

- C&C: 自己管理、自己モニタリング、自己評価、フィードバック、視覚支援
- 教師との相互交渉、信頼関係
  - Cheney(2009)JEBD,17(4)
- 一日の始まりと終わりにチェックする
- あるいは、時間の始まりと終わりにチェックする

## 約束：指名されてから発言する

	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	合計
朝の会						
休憩						
昼休み						
帰りの会						

約束をきめて、定期的に確認と振り返り

# 段階3：個別指導

ABAに基づく包括的対応  
専門機関との連携



# 段階3: 個別指導

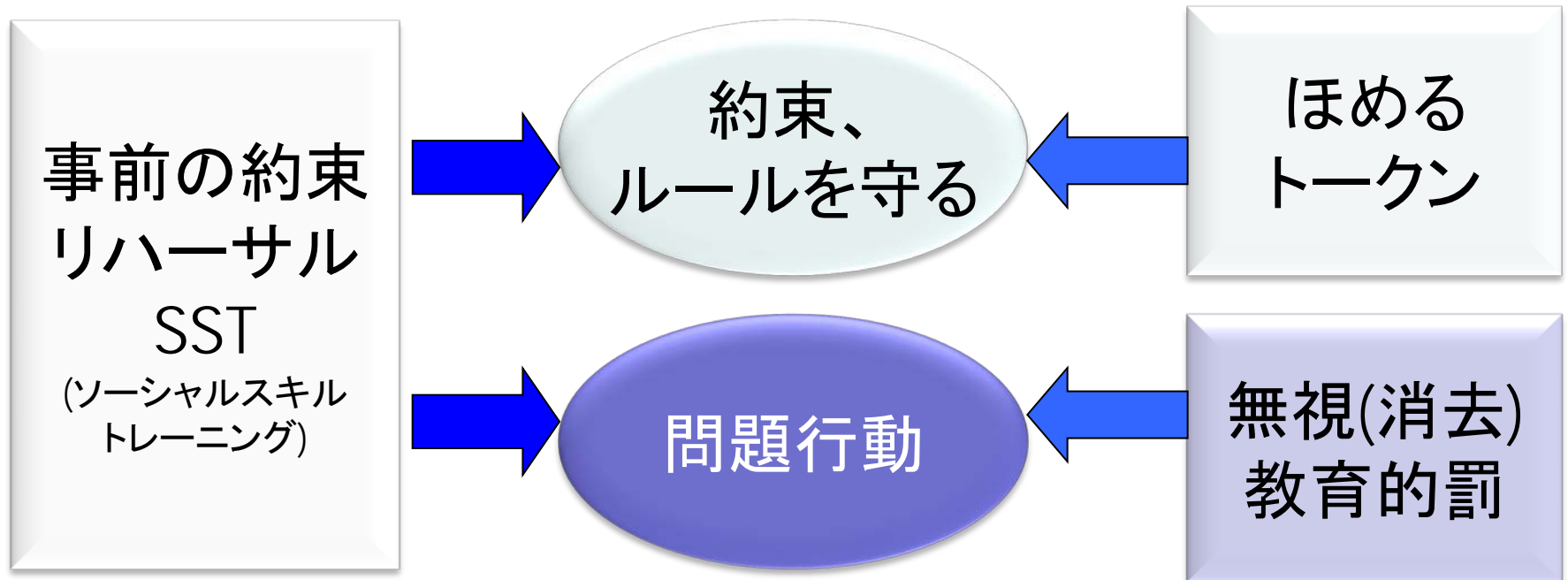
- 段階2で目標達成困難な子どもを特定し、支援チームを結成
  - 支援会議の定期開催、外部専門家の介入、保護者の参加
- 問題行動への個別指導
  - 通級や適応教室などで特別な指導
  - SST、カウンセリング
- 家庭での指導も
  - 父親の積極的参加を

保護者を入れた支援チームの結成と連携  
応用行動分析(ABA)による介入

# ABAに基づく包括的対応

## 中学校事例

ADHDの生徒



合理的  
配慮

学習  
支援

自己  
肯定感

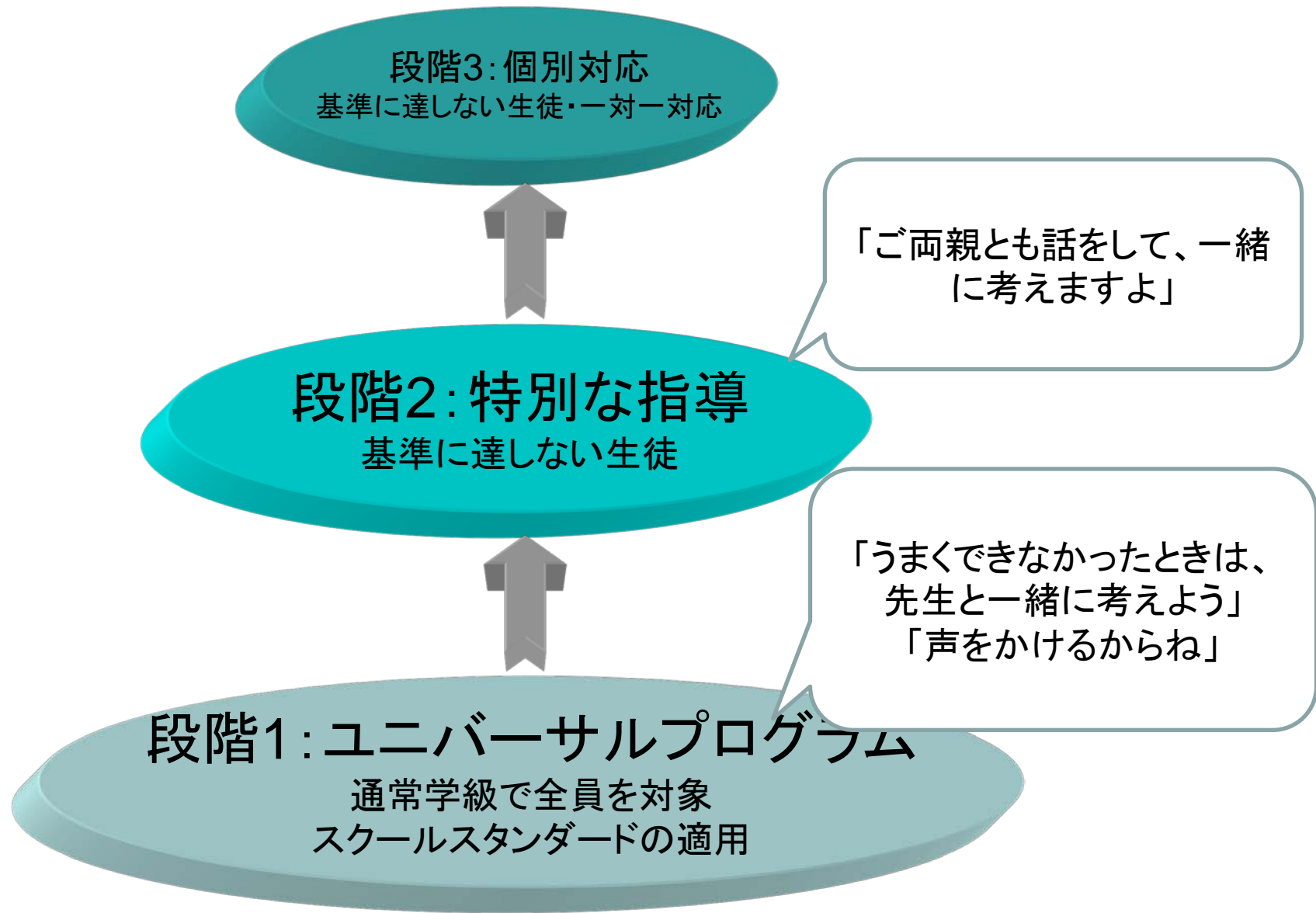
カウンセ  
リング

親支援

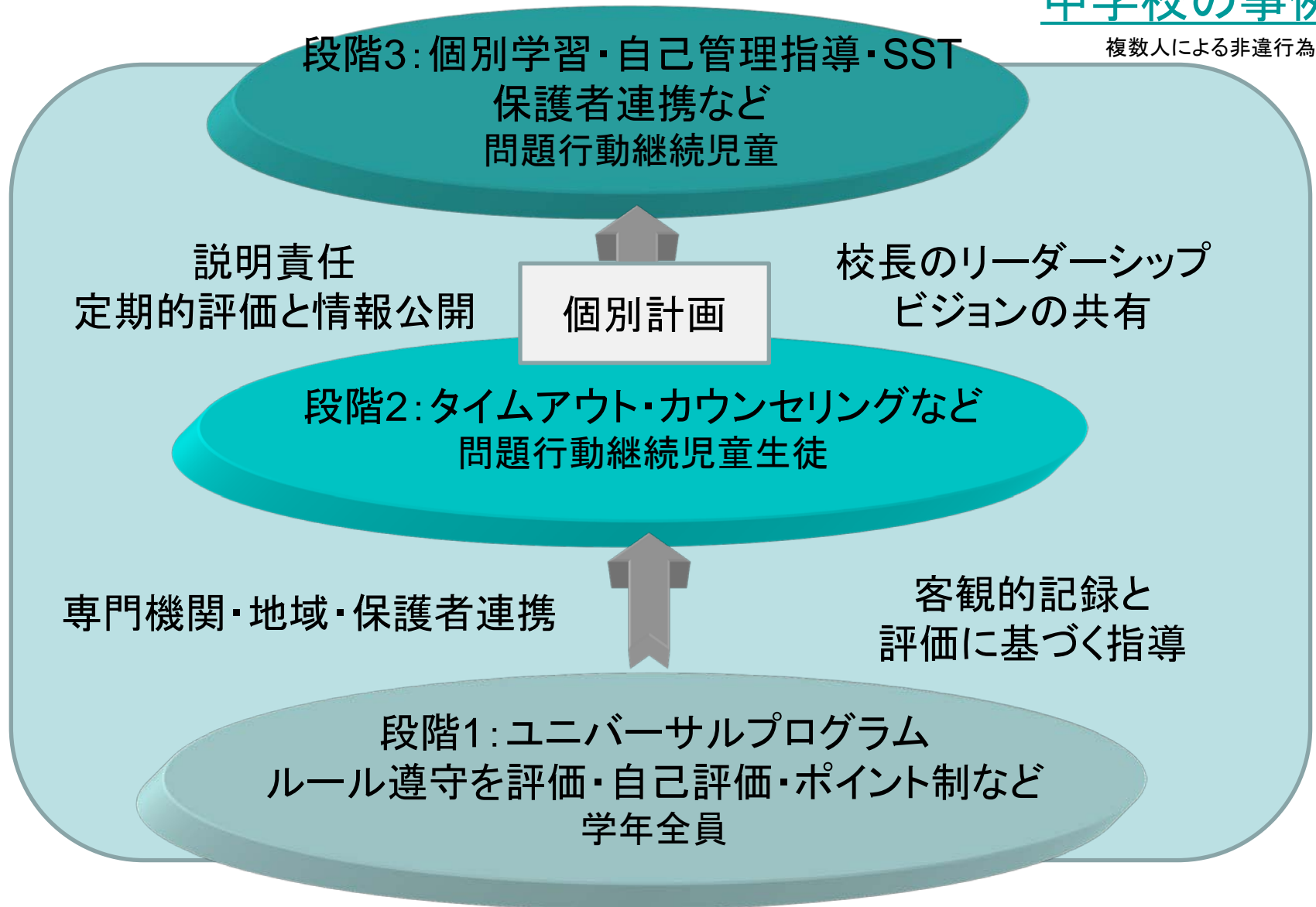
基本的な問題・対応

# 教育的プログラム

- 質の高い教師と専門家の介入
- 好ましい環境: ルールとルールを守る対応、学習にふさわしい教室など
- 行動管理: よい行動を伸ばす対応(教師の反応性、楽観主義、不屈の心、信じる気持ち)、ABA、機能的アセスメント
- ソーシャルスキル・関係の支援: 5つのアプローチ



ルールと手続きの説明責任。有効性の証明



全校体制による包括的な取組(SWPBS)



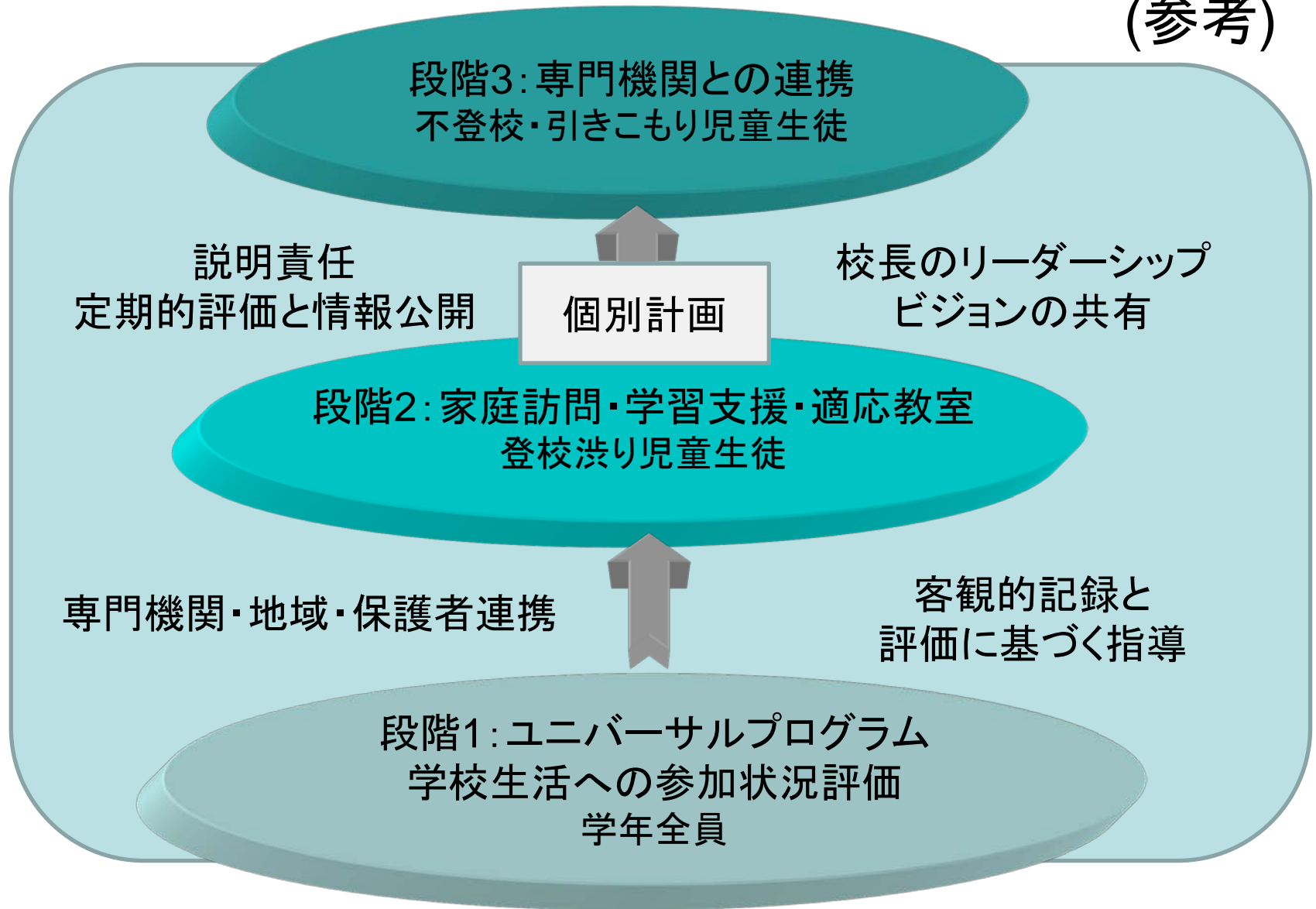


pixta.jp - 7055745

# 不登校の場合

UP:自己評価を毎日実施。気になる児童生徒を特定  
段階2:個別相談、対応

(参考)



不登校へのSWPBS。予防的対応の充実と対応の一元化

# UPによる指導手続き

## 1. 充実した学校生活の条件を選択

話し合い。誰でも必ず守れるきまりも

## 2. 自己評価表や掲示で意識付を図る

教室内に掲示等。定期的に自己評価。

## 3. 充実していることをまめに評価する

当たり前前の状態や行動が、  
充実した学校生活につながることを教える

子ども：当たり前前の活動の大切さを意識  
教師：ひとりひとりの子どもの状態をチェック

# 充実した学校生活の条件(例)

項 目	月 日	月 日	月 日	月 日
遅刻をせずに登校している				
授業には意欲的に参加している				
休み時間に好きなことを楽しんでいる				
給食をしっかり食べている				
友だちや同級生とのかかわりがある				
自分のものは自分で管理できている				
困りごとがあるときやできないときに誰かに相談する				

# 段階2: 気になる子どもへの対応

- 教師評価で気になる子どもを特定
- 時間を特設し、個別に対応
  - 悩み事の相談、適応指導教室の紹介
- 保護者との連携
  - 情報の共有、両者による支援
- 定期的な評価
  - できていることをこまめにフィードバック
  - 悩み事への継続的対応

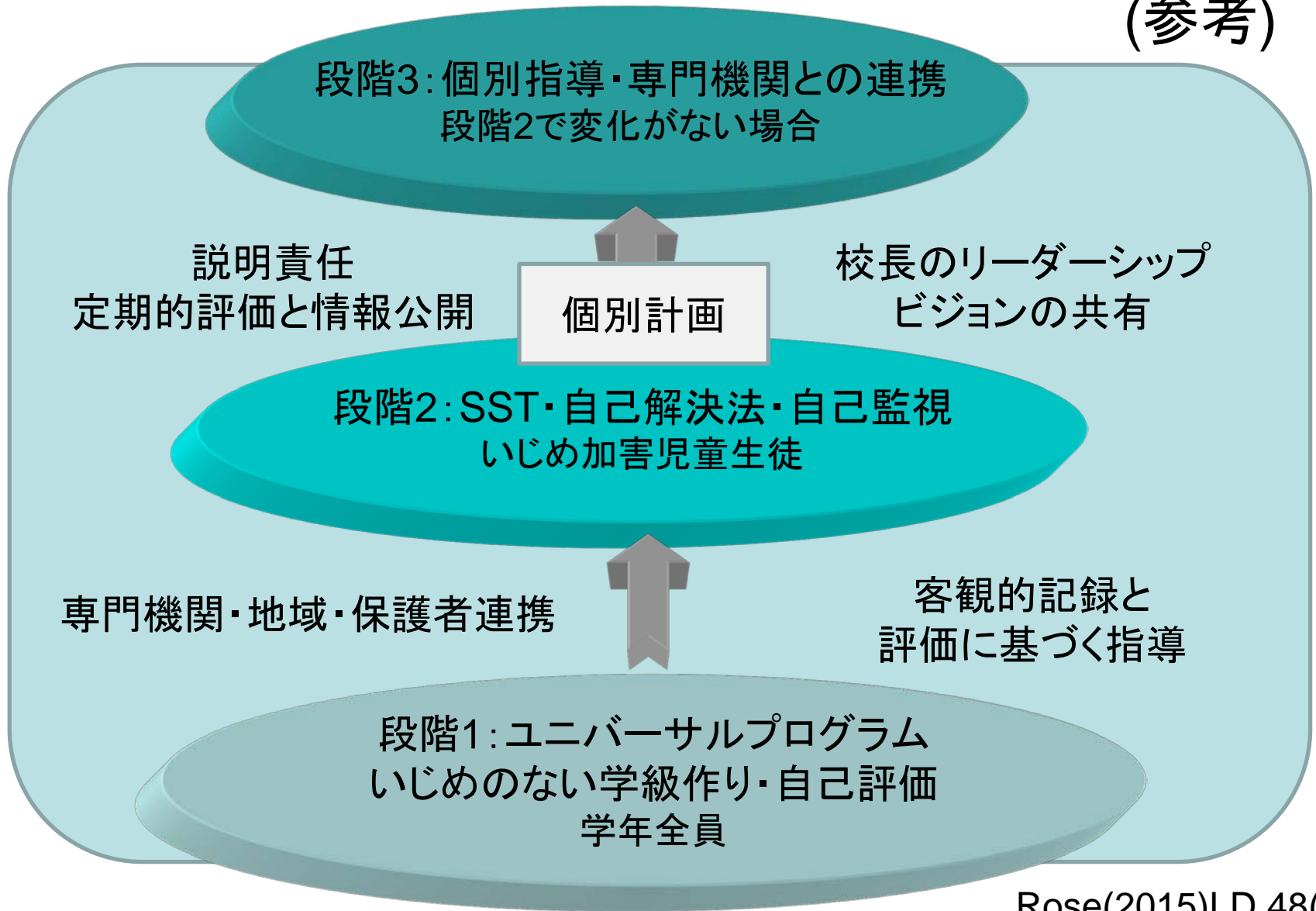
登校しぶりや学校生活不適應への早期対応



# いじめの場合

UP:自己評価を毎日実施。気になる児童生徒を特定  
段階2:個別相談、対応

(参考)



いじめへのSWPBS。予防的対応の充実と対応の一元化

# 楽しい学校生活の条件(例)

項 目	月 日	月 日	月 日	月 日
あいさつをしてもらった、返してもらった				
話しかけたときに、答えてもらえた				
休み時間、同級生と一緒に遊べた				
自分にとって気になることを言われた				
自分のものがなくなったり、傷ついたりしていた				
ネットで、自分にとって気になることを見つけた				
困りごとがあるときやできないときに誰かに相談した				



# 段階2: 気になる子どもへの対応

- 教師評価で気になる子どもを特定
- 時間を特設し、個別に対応
  - 悩み事の相談、適応指導教室の紹介
- 保護者との連携
  - 情報の共有、両者による支援
- 定期的な評価
  - できていることをこまめに評価(個人・全体)
  - 悩み事への継続的対応(個人・全体)

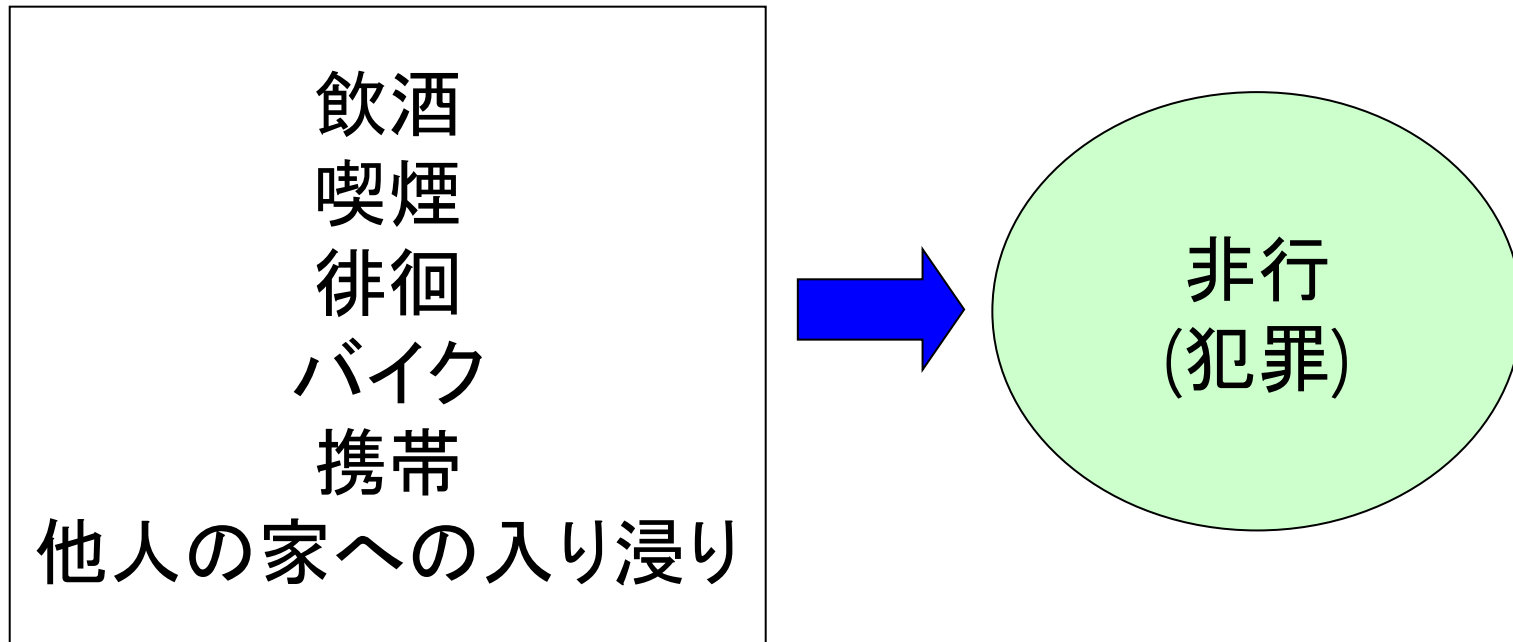
人間関係の問題やいじめへの早期対応

# (参考)非行は「問題行動」ではない

- 非行(犯罪)に至るまでの本人の経験や想いを知る
- 「相手」に対する感情や想いを聴く
- どのような内容、表現も受けとめる
- 「相手」に対する否定的感情を受けとめる

その過程・結果から「相手」の気持ちを理解し、  
「何がいけなかったか」の気づきにつなげる  
「反省」を急がせない。

# (参考)犯罪につながる条件を減らす



非行につながる要因を一つでも減らす(カードをそろえない)  
ロイヤルストレートフラッシュ(非行)を作らせない

# 問題行動のまとめ



# 問題の認識

- スクールスタンダードという基準を作る
  - 基準からの逸脱を示す
  - データ(証拠)を示す
- 子どもの訴えを聴く
  - 悩み、不満、自己認識
- 第三者の評価
  - 保護者、担任以外の教師、専門機関

「押しつけ」ではなく、客観的な情報提供により気づきを促す

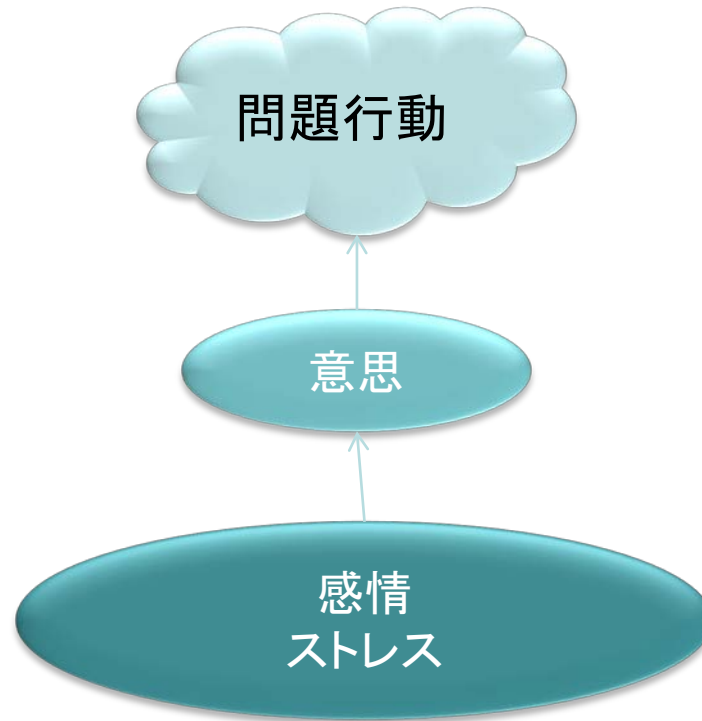
# 教師と子どもとの信頼関係



- すべての段階：説明責任と情報公開、エビデンスに基づく対応
- 段階1：ルールを守っていることをほめる、当たり前前の状態を評価する
- 段階2：生徒中心の話し合い、自己選択の保障、ルールを守っていることをほめる
- 段階3：保護者連携、教師と保護者による定期的評価



# 重要：子どもの気持ちを聴く



本人の訴えをよく聴く  
本人の訴えを「翻訳」し、再提示して、一緒に考える

# 聴く？ 聞きながす？

悩みの共有

クールダウンをはかる





# 生徒指導の校内連携

- 生徒指導主任+教師
  - SSに基づき毅然と対応
- 養護教諭+SC
  - 生徒の聴き役
  - 受容?、指示?

訴えを聞き流す、焦点を外すなど

役割分担で統一された校内支援体制

# 教師の心構え



1. 課題の優先順位をつける
2. 忙しいことを受け入れる
3. 大人であることを忘れない
4. 子どもを怖がらない(注目してほしいだけ)
5. 子どもの言い分を積極的に聞く
6. 鍛錬を続ける
7. 批判に謙虚に
8. 彼らを変えようとするのではなく、何を訴えたいのかを聞く
9. 気長に取り組む
10. リラックス、そして深呼吸！

# 問題行動の対応：まとめ

- 「良くなった」より、良くするための過程が大事

あきらめずに気長につきあうこと

- 何を訴えたいのか、じっくり聴こう

最後まで聴き、妥当な自己表現を教える

- 毅然とした態度を貫く

決めた約束、ルールは譲らない、例外を作らない

- 悪くない状態をほめる

期待しない、見捨てない、(いつか良くなると)信じること

### (3)対人関係の場合



# ソーシャルスキルトレーニング

## <ソーシャルスキル>

傷ついた友達を慰める  
お年寄りに席を譲る  
落とし物を届ける  
いじめられている友達を助ける

獲得が期待される能力  
例:おもいやり

## ソーシャルスキルトレーニング

説明を聞く  
練習する(ロールプレイ)  
評価(いいところを見つける)  
日常場面で実行する

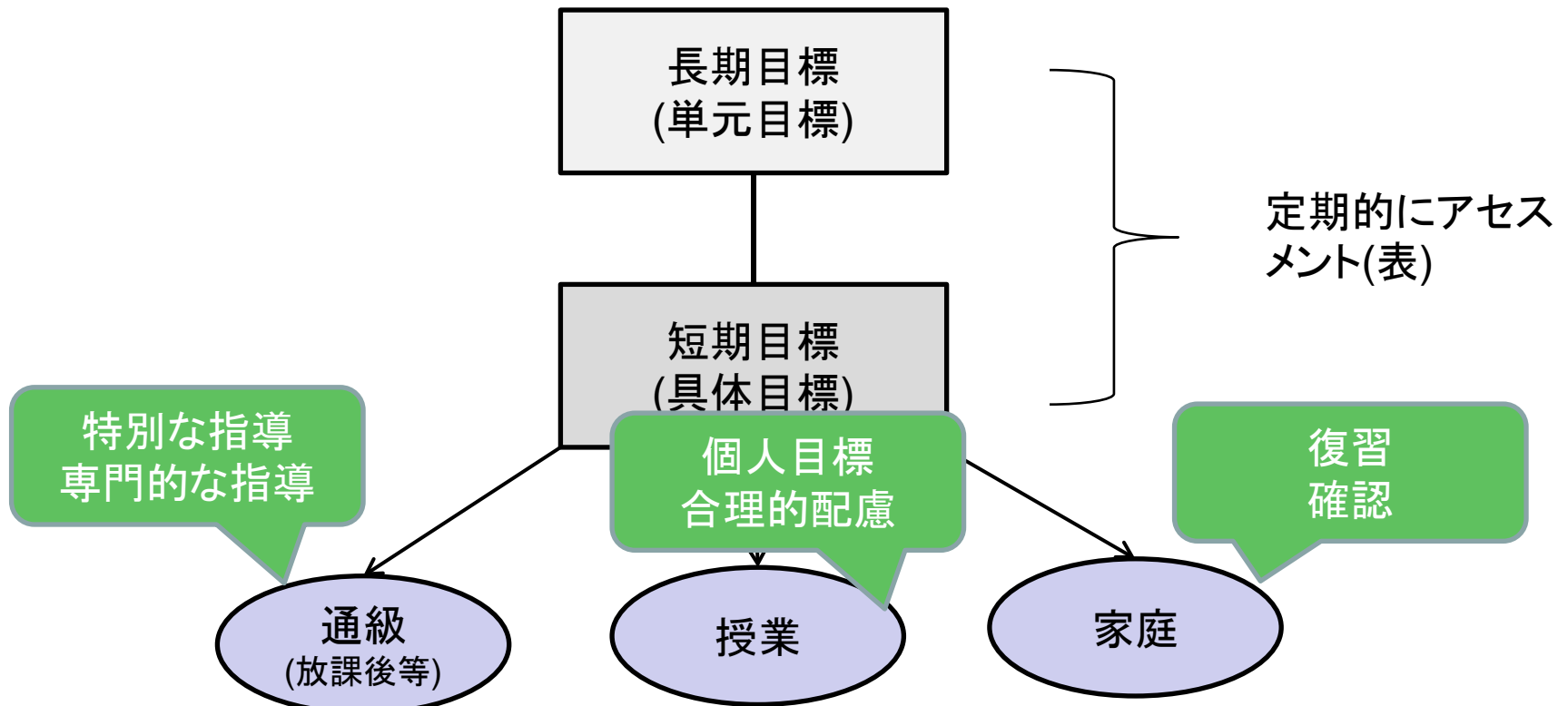
通級指導教室  
で指導

通常学級で  
指導

通級・通常・家庭の三者の連携で行動般化を

# 個別目標をどこで教えるのか？

例) ヒントカードを使って解く



ヒントカードの使い方を学ぶ

授業でヒントカードを使う

ヒントカードを使って宿題をする

個別の指導計画作成の必要性